

第63回県下高等学校柔道選手権大会
(第45回全国高等学校柔道選手権大会鹿児島県予選)
実 施 要 項

- 1 主 催 公益財団法人鹿児島県柔道会
- 2 後 援 鹿児島県高等学校体育連盟
- 3 期 日 令和5年1月21日(土)、22日(日)
 - ※ 会場入場 8時00分
 - ※ 審判会議・監督会議 10時40分
 - ※ 開会式 11時00分
 - ※ 個人試合開始 11時20分(予定)
 - ※ 個人試合(男女)・女子団体試合計量は、20日(金)16:30より実施する。
(個人無差別の計量は行わない。)
但し、20日(金)にできないものは1日目9時から可とする。
 - ※ 2日目の団体試合 入場8時30分、10時30分より開始する。
- 4 会 場 西原商会アリーナ・サブアリーナ(鹿児島アリーナ)
- 5 競技規則
 - (1) 国際柔道連盟試合審判規定ならびに(公財)全国高等学校体育連盟柔道部申し合わせ事項による。
 - (2) 試合時間はすべて3分間とする。
 - ① 団体試合
 - ア 「優勢勝ち」の判定基準は「技あり」または、「僅差」(「指導」差2)以上とする。
 - イ チームの内容が同等の場合は代表戦を行う。代表戦の方法は「6 試合方法」で定める。
 - ② 個人試合
 - ア 「優勢勝ち」の判定基準は「技あり」または「僅差」(「指導」差2)以上とする。
 - イ 試合終了時に得点差がない場合、もしくは、「指導」差が1以下の場合、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行う。延長戦は、「技あり」以上の得点があった時点、または、「指導」の数に差が出た時点で試合終了となる。
 - ※「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、勝敗を決する。延長戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、必ず勝敗を決する。
- 6 試合方法
 - (1) 団体試合は男女ともトーナメント戦とする。
 - ① トーナメント戦での勝敗の決定は次による。
 - ア 判定基準：選手対選手それぞれの試合の勝敗は、「技あり」「僅差」以上とする。
 - ※僅差は「指導差が2」以上とする。
 - イ 「技の内容」と「指導」の重み
 - ※【一本勝ち=反則勝ち>技あり>僅差】の順とする。
 - (2) 男子団体試合は、点取り試合とし、試合ごとのオーダー変更を認める。
 - ① 男子トーナメント戦の勝敗の決定は次による。
 - ア 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - イ アで同等の場合は「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - ※ただし、一本勝ちと反則勝ちは同等とする。
 - ウ イで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - エ ウで同等の場合は代表戦を行う。
 - 代表戦は代表選手を任意に選出して行う。代表戦の「優勢勝ち」の判定基準は「技あり」または「僅差」(「指導」差2)以上とし、試合終了時に得点差がない場合、もしくは、「指導」差が1以下の場合、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行う。延長戦は、「技あり」以上の得点があった時点、または「指導」の数に差が出た時点で試合終了となる。
 - ※ 代表戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い必ず勝敗を決する。
 - (3) 女子団体試合は、体重別点取り(先鋒：52kg以下・中堅：63kg以下・大将：無差別)とし、体重の軽い者は重い階級に出場できる。なお、補欠は、該当する階級に出場できる。試合ごとのオーダー変更は行わない。
 - ① トーナメント戦の勝敗の決定は次による。
 - ア 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

イ アで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

※ただし、一本勝ちと反則勝ちは同等とする。

ウ イで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

エ ウで同等の場合は、代表戦を行う。

代表戦は「引き分け」対戦の中から抽選で選び、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。代表戦は、「技あり」以上の得点があった時点、または、「指導」の数に差が出た時点で試合終了となる。なお、「引き分け」対戦がない場合は、両者「反則負け」などで勝敗がつかなかった対戦を代表戦とする。また、両チームが選手の負傷などで2名しかおらず、「引き分け」対戦がない場合などは、代表選手をすべての対戦の中から抽選で選出して、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。

※ 代表戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、必ず勝敗を決する。

(4) 個人試合

① 男子は、体重別（60kg級・66kg級・73kg級・81kg級・無差別）の5階級によるトーナメント法で行う。

② 女子は、体重別（48kg級・52kg級・57kg級・63kg級・無差別）の5階級によるトーナメント法で行う。

☆団体試合・先鋒（52kg以下に登録した場合）

個人試合は、48kg級・52kg級・無差別のいずれかに登録できる。

☆団体試合・中堅（63kg以下に登録した場合）

個人試合は、全ての階級ならびに無差別のいずれかに登録できる。

7 引率・監督について

(1) 引率責任者は、団体試合の場合は校長が認める当該校の職員とする。個人試合の場合は校長の認める学校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の2に示された者、または地方公務員法第22条の2に示された者）も可とする。ただし、県高体連会長に事前に届け出ること。

(2) 監督・コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険等）に必ず加入することを条件とする。

8 監督の役割

(1) 監督は自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。

(2) 監督の行為・言動

① 試合が止まっている間（「待て」から「始め」）のみ、選手に対し指示を与えることができる。

② 次の行為を禁止する。

ア 試合が続行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。

イ 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。

(3) 罰則規定

① 1回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。

② 2回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に布告の上、大会委員長または審判長の任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。

※次の試合（対戦校）からは、監督席に座ることはできるが、その後も改善されない場合は、大会期間中をとおして、監督席への着席を認めない。

9 参加資格

(1) 鹿児島県内の高等学校生徒で、平成15年4月2日以降に生まれた者（令和3年4月2日現在で、18歳未満であり第1・2学年に在籍）。同一学年での出場は1回限りとする。

(2) 転校後6ヶ月未満の者は出場できない。ただし、一家転住等やむを得ない場合は主催者の認可があればこの限りでない。（外国人留学生もこれに準ずる。）

(3) 高等学校体育連盟及び全日本柔道連盟に登録した選手（チーム）であること。監督は、全日本柔道連盟に登録をした者であること。

(4) チームの編成は、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒の混成は認めない。

(5) 出場する選手は、あらかじめ健康診断を受け在学する学校長の承認を必要とする。

(6) その他の事項については、全国高等学校体育連盟・九州高等学校体育連盟大会開催基準要項の参加資格に準ずる。

(7) 参加資格の特例

① 上記(1) (2)に定める生徒以外、(2)～(6)の大会参加資格を満たし、かつ、本連盟が承認した生徒については、別途に定める規定に従い大会参加を認める。

② 上記(1)のただし書きについては、学年の区分を設けない課程に在籍する生徒の出場は、同一競技2回限りとする。

③ 学年の区分を設けてある課程に在籍する生徒の出場は、2学年までとする。

- (8) 統廃合の対象となる学校については、当該校を含む、合同チームによる大会参加を認める。
- (9) 脳震盪について、選手および指導者は下記の事項を遵守すること。
- ① 大会1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
 - ② 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
なお、至急、専門医（脳神経外科）の精査を受けること。
 - ③ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - ④ 当該選手の指導者は、大会事務局及び（公財）全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
- (10) 皮膚真菌症（トングランス感染症）については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。
- (12) 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策については、別途定める。事前に出場校に連絡する。
なお、試合中に感染予防措置を遵守できない参加者には、参加の取り消しや途中退場を求めることがあり得る。

10 参加制限

- (1) 団体試合は、男子各校1チーム、監督1名、選手7名とする。
女子各校1チーム、監督1名、選手3名、補欠2名とする。
- (2) 個人試合は、定める体重5階級、各校3名以内とする。但し、無差別は4名以内とする。
- (3) 男子団体試合の編成は3名から5名でも良い。なお、3名もしくは4名の場合は、大将からつめる（先鋒・次鋒、もしくは先鋒を空ける）。
- (4) 女子団体試合の体重区分は次のとおりとする。先鋒52kg以下、中堅63kg以下、大将無差別。
なお、体重の軽い者は重い階級に出場できる。また、補欠は該当する階級に出場できる。参加申し込み後の選手変更は2名を限度とする。
※女子団体試合において、補欠に52kg以下の選手登録していない状態で、先鋒（52kg以下）を抹消する場合、及び補欠に63kg以下の選手を登録していない状態で、中堅（63kg以下）を抹消する場合は、新たに登録する選手を直接、先鋒あるいは中堅に入れることができる。
- (5) 試合による負傷については、試合場での応急処置のみとする。
- (6) 選手変更について
 - ① 団体試合・個人試合ともに、申込み後の選手に負傷又は発病があった場合は、次の手続きを経て監督会議までに提出する。
 - ② 事故のあった選手の診断書
 - ③ 変更選手の校長認可証・健康診断書
 - ④ その他の事項については、全国大会要項に準ずる。

- 11 参加申込 令和5年1月4日（水）必着で、郵送及びメールの両方で必ず申し込みすること。封筒に、「大会申込書在中」と朱記すること。

申込先 892-0853 鹿児島市城山町2-21 公益財団 鹿児島県柔道会宛て

E-mail kagoshima-judokai@y2.dion.ne.jp

なお、組合せ表の送付を希望する場合は、あて名記入、切手つきの封筒を同封すること。

- 12 参加料 団体試合＝1チーム 男子 5,000円 女子 3,000円
個人試合＝個人試合のみ出場する選手 1,000円
※ 大会当日、受付に納入すること。

- 13 表彰 団体試合・個人試合ともベスト4までを表彰する。

- 14 組合せ 主催者において、決定する。

15 その他

- (1) 柔道衣コントロールは、選手本人の責任で練習会場にて事前に行う。試合場で疑義のある場合は当該審判員が測定し、ルールに則り判断（反則負け）する。
- (2) 男女とも団体試合優勝校と個人試合各階級優勝者が「第45回全国高等学校柔道選手権大会」に鹿児島県代表として出場する。
場所：東京都日本武道館 令和5年3月20日（月）男女個人試合
3月21日（火・祝）男女団体試合
- (3) 当日は、駐車場の混雑が予想されるので、できるだけ公共交通機関を利用すること。
- (4) 個人で靴を管理するために、各自ビニール袋を準備すること。